

2007. 4. 25

確認1. 高文連理事・高文連事務局長について

例年、高視研校内放送委員会（役員校）の委員長と副委員長が高文連理事・高文連事務局長のいずれかを兼任していました。しかし、役員校の仕事が通常のNHK大会、アンデパンダン大会の運営のみならず、高文連の大会（総合文化祭放送部門大会）、派遣激励会、総合開閉会式の司会生徒対応や、会議参加など、高文連業務が多く入ってきました。その為、校内放送委員会の負担が多くなって来ました。また、参加校数の減少や参加生徒数の減少で、審査補助生徒のやりくり（委員校生徒の減少）が難しくなってきました。その為、本来の仕事以外の雑務が増えてきました。よって、今後一定の期間、高文連業務のうち、理事・事務局長・総文祭生徒委員の仕事を校内放送委員会から外すことが、昨年度確認されています。

確認2. 関東大会について

2007年1月21日に第4回関東大会が群馬県を会場に行われました。神奈川県からは昨年度の決定に基づいて、先の総文祭大会で推薦を受けた生徒が30名ほど参加しました。

当日開かれた関東地区代表者会議には、川又が出席しました。その会議では、（1）関東地区高等学校文化連盟放送部会規約（2）今後の大会開催県（3）関東地区代表者会議日程が話し合われました。

（2）の今後の大会開催県は

平成20年	東京都
平成21年	千葉県
平成22年	神奈川県
平成23年	山梨県

と決定しました。

提案1. 今年度の役員校の選出方法について

今日、放送部のコンクールに参加する学校数が激減している。昨年度は委員校がコンクールに参加せず、委員校の仕事を引き受ける事ができない学校が複数あった。また、今年度の役員改選において、諸事情により1年目の委員校で全ての学校が役員校を引き受ける事ができなかった。以上の点をふまえ、現役員会では、「現行の制度をこれ以上続ける事は不可能になった。」との結論に達した。本来は、規約改正も併せて提案すべきだと考えたが、大きな変更を伴うため、顧問の先生方とじっくり時間をかけて、新しい制度を作っていきたいと考え、今回の提案を見送った。

暫定的に、現役員会のメンバーで大会運営及び校内放送委員会の体制についての検討を行う。(実質的な改選は行わない)

提案2. 委員校選出の一時中断について

特定の委員校が全ての補助業務を行うという従来の方法では、大会を運営する事が難しくなっている。また、委員校のもう一つの役割である時期役員校の候補になると言うの点も提案1にある様に難しくなっている。

今年度は、委員校を新規に選出しない。

(既に委員校になっている学校には、協力をお願いします。)

大会運営の補助は、部員の多い学校に直接お願いをする。

提案3. 総文祭関東大会に向けて、一時金を積み立てる

確認2にあるように2010年(平成22年)に、総文祭関東大会が神奈川県で開催されます。全国大会の際は、全国大会実行委員会から必要経費が計上され(1000万円近くの予算を使いました)、専門部として大きな金額を用意する必要がありませんでした。しかし、今回の大会の予算的裏づけは、県高文連からの補助金20万円しかなく、残りは、広告と前年度からの繰越金を使用することになるが、それではとても足りない事が予想される。

今年度、一括して30万円を積立に計上する。

少しずつ積み立てる方法も考えられるが、近年の校内放送委員会の決算は赤字基調なので、繰越金があるうちに積み立てて置いた方が、後で困らないと判断した。